

# 第40回 全国青年指導者研修会

## — 報告書 —



と き：平成23年3月19日（土）～21日（祝）

と ころ：刈谷洲原ロッジ

主催：日本健民少年団連合

主管：安城市健民少年団

後援：安城市教育委員会

## 日本健民少年団綱領

- ◆ 次の世代の文化と社会を創る少年の育成に尽くす。
- ◆ 健民少年団を通して、正しいスポーツ観に立って、スポーツ が全人教育に役立つことを確信する。
- ◆ 健民少年団を通して、少年の内在する無限の可能性を開発する。
- ◆ われわれは、明るい社会づくりのため努力する。

## 健民少年団々歌

○やきつく陽ざしを 浴びながら

歩く野の道 丘の道

歌を歌えば 足かろく

明日の希望に 胸踊る

みんな明るい まなざしの

われら健民少年団

○きらめく夜空の 星のもと

もゆるかがり火 ほうてらす

心一つに 相つどう

清き未来を 語り合う

みんな輝く まなざしの

われら健民少年団



## 40回 全国青年指導者研修会開催要項

1. 趣 旨 全国の健民少年団の青年指導者が集い、積極的な研修と交歓活動の実施により、青少年の健全育成運動の振興を図るとともに、参加青年指導者が親睦を深め、日本健民少年団連合の充実と発展に寄与する。
2. 主 催 日本健民少年団連合
3. 主 管 安城市健民少年団
4. 期 日 平成23年3月19日(土)～3月21日(祝) 2泊3日
5. 会 場刈谷洲原ロッジ  
愛知県刈谷市井ヶ谷町松ヶ崎7番地18  
TEL:0566-36-8122

集合・開会式 安城市市民交流センター  
愛知県安城市大東町11番3号 TEL:0566-71-0601

6. 日 程 別紙
7. 参加対象及び  
募集人員 ① 日本健民少年団連合加盟都市団員で、平成23年度高校生以上の男女  
(現在中学3年生以上)  
② 青少年活動を行っている青年及び指導者等関係者  
③ 各都市5名(超える場合は事前に連絡ください)
8. 参加費 5,000円(参加者一律)
9. 服装 各都市団で決められた服装を着用
10. 申込み等 ◆別紙申込用紙に記入の上、2月20日(水)迄に各団取りまとめの上、  
参加費を添えて申し込み下さい。  
◆申込先 〒446-0073 愛知県安城市篠目町2-2-11  
大島 清  
TEL/FAX:0566-75-2077  
e-mail:kirk@katch.ne.jp  
◆振込先 三菱東京UFJ銀行 安城支店 普通 0319052  
オオシマキヨシ (安城市健民少年団 副団長名義)
13. 携行品 ◆個人:水筒、コップ(紙コップ等用意しません)、雨具、筆記用具、着替え  
及び寝間着、洗面入浴道具(シャンプー等ありません)、日よけ帽子、  
自作名刺(枚数は自由。1枚は名札用)、保険証のコピー、虫刺され・虫除け  
の薬、懐中電灯、その他各自必要と思われるもの  
◆団:救急薬品他
14. その他 ・食物アレルギー等ある場合は、事前にお知らせ下さい。  
・研修会参加者は、全員傷害保険及び賠償責任保険へ加入をお願いいたします。  
・研修会及び研修会期間中の活動は、荒天でない限り実行いたします。  
・参加者の緊急連絡先、住所、電話番号は各団で責任を持って把握して下さい。

## 第40回 日本健民少年団連合 青年指導者研修会 日程表

	3/19 (土)	3/20 (日)	3/21 (祝)
6:00		起床	起床
7:00		朝の集い	朝の集い
8:00		朝食	朝食
9:00		研修3. <u>全国大会の準備</u>	移動 (洲原→産業振興センター)
10:00		私たちの全国大会 を作ってみる!	研修7. <u>1分ビデオ</u> (1分で健少をPR)
11:00			
12:00		昼食	昼食 (産業振興センター)
13:00	受付開始	研修4. <u>全国大会の準備</u>	閉会
14:00	開会 オリエンテーション 移動 (安城→刈谷洲原ロッジ)	全国大会で準備するもの (全国大会マニュアル)	解散
15:00	研修1. <u>全国大会振り返り</u>	研修5. <u>総括</u>	
16:00	今までに参加した全国大会 思い出 (良い点・悪い点)	発表	
17:00	<u>全国大会のあり方</u> ・提言	私たちの全国大会 第55回全国大会予告	
18:00	夕食	夕食	
19:00	研修2. <u>少年団活動における</u>	研修6. <u>1分ビデオの準備</u>	
20:00	<u>野外活動</u> (キャンプファイヤーで 注意することなど)	健民少年団 PR ビデオ を作ってみる!	
21:00	入浴・自由交歓	入浴・自由交歓	
22:00	就寝準備	就寝準備	
23:00	消灯	消灯	

## 第40回指導者研修会参加者

	氏名	性別	備考	チーム	終了証授与
彦根	岸田 謡	女	指導者	A	○
彦根	岸田 暦	女	高1	B	○
彦根	高木 桃子	女	高1	C	○
彦根	川崎 月詩	女	高1	A	○
彦根	北村 理恵	女	指導者	C	○
横浜	魚地 昌彦	男	指導者	B	○
横浜	畑 智徳	男	大4	A	○
横浜	冨田 あや	女	指導者	B	○
横浜	杉山 裕之	男	高3	C	○
豊橋	本多 周太郎	男	大学生	A	○
豊橋	本多 涼太郎	男	大学生	B	○
豊橋	小澤 雅史	男	指導者	C	○
豊橋	戸田 高弘	男	指導者	A	○
安城	仲田 美奈子	女	指導者	B	○
安城	篠崎 司	男	指導者	C	○
安城	村尾 梨花	女	中2	A	○
安城	篠宮 優海	女	中2	B	○
安城	内藤 教恵	女	顧問		
安城	伊藤 浩	男	団長		
安城	大島 清	男	副団長	C	
安城	仲田 宗子	女	団委員		

第40回日本健民少年団連合指導者研修会  
— 決算書 —

安城市健民少年団

2010/3/26

【 収入の部 】

項目	内訳	決算
参加費	5,000 円×18 名	¥90,000
全国大会からの引当金		¥75,628
連合助成金		¥20,000
寄付金		0
	合計	¥185,628

【 支出の部 】

項目	内訳	決算
宿泊費	19 日分	¥17,160
	20 日分	¥15,650
		¥32,810
食費	19 日夜分	¥10,623
	夜食など	¥13,103
	米代	¥5,000
	20 日昼 (弁当)	¥6,374
	20 日夜	¥11,724
	21 日昼 (レストラン)	¥22,050
		¥68,874
記念品	桜井侃ストラップ	¥9,000
印刷製本代	トナー代	¥9,345
	トナー代	¥18,000
		¥27,345
輸送費	バス使用料 (3 日分)	¥30,000
	燃料代	¥1,331
	荷物車謝礼	¥5,000
		¥36,331
雑費	文房具など	¥4,132
	名札など	¥2,060
	B 紙	¥315
		¥6,507
その他 (寄付金)	東日本大震災へ	¥4,761
	合計	¥185,628



# — 研修会報告 —

## 1. 全国大会振り返り

### Aチーム

#### ○よかったこと

ウォークラリーでチェックポイントごとに水の補給とトイレ休憩がとれたのが良かった。
団毎のだしものでゲームをするキャンプファイヤーがとてもおも面白くてよかったと思います。
キャンプファイヤーでの各団の出し物は、よかったと思う。
主催団の指示が的確で動きやすかった。
去年の夏は青年指導者として初めて参加して、安城の指導者全体の動向がよく浸透していたのが良かった。
青年リーダーの基、各団の青年指導者が非常に動きやすそうだった。
高校生の動きが良かった。
父兄や他団の青年を頼っていてよかった。
他団の人達のフォロー、手伝いの良さ。
タイムテーブルはありがたい

#### ○よくなかったこと

ウォークラリーで道順がしっかり把握できていなかった。
ウォークラリーで青年指導者としてチェックポイントに立っていたが、最初の集団が到着する前に、次のルートを確認をしていくべきだった。
クラフトは、手で持っておく必要があり、革で裏表があるので全体でやるには少し難易度が高かった。リリアンなど手を離しておけるものの方が全体クラフトとしてはよかった。
パレード、せっかくの格好も歩いているだけでもったいないきがした。全体で団歌を歌うなどした方が良かった。
活動中の指導者の居場所？
開会式の旗手のリハーサルもしっかりやりたかった。
減多にない地元へ帰省できず、キャンプファイヤーの出し物が非常にぎこちなくなってしまった。
主催団として、しっかりとした行動をとることができなかった。
一人ひとりが責任を持った行動をしていけば、もっと良い全国大会になりと思う。

#### ○今までの全国大会

大会毎の特性 T シャツが非常に活動しやすい。
チクサクコールは、青年が暴走がちになっている。子供を巻き込むなら冷静に子供をのらせることもしなければいけない。
チクサクコールは、徐々に青年の勢いに乗って来てくれる子が増えてもよかった。
学生の指導者と大人の指導者との話し合いのちがい。
前日の話し合いの意味がないような行動をされる。
指導者と団員の泊る場所が離れすぎ。
学生指導者だけの行動の必要性。
団員に対する、指導・指摘
団員と一緒に喋るのは良いけど人の話を無視し過ぎ。
指導者だけで固まりすぎ。
守口の全国大会で、女子班と男子班を男女混合の班にして分けたことがとても良かったと思いました。
初めてだったのもあるけど全てにながされて、「全国大会」や「健民少年団」として自覚をしっかり持つことができなかった。

## ○その他（自分自身の反省）

自分の班には高校生も居たのに少々自分が前に出過ぎた。
自分ので考えで行動ができなかった。
周りを見て、行動が上手にできていなかった。
たくさんの子供と接することができなかった。
レクリエーションの種類が少ないがためでした。

## B チーム

### ○よかったこと

いつも、あっちこちから違う指示がでて混乱が多いけど、安城の大会ではトップがはっきりしていて良かった。
安城での全国大会は、熱中症対策がしっかりしていて良かった。とくに、水とか靴の冷却スプレーなど
安城の全国大会の中で、ウォークラリーでいろいろな所へ行けてよかった。
キャンプファイヤーの火の舞が迫力があってすごかった。

### ○プログラムについて

あまり凝ったプログラムではなくて、シンプルな内容にして参加者同士の交流の時間を多くとる。
明日やることを話し合った後にあつまるのは、少しきつかった。
大会に参加している青年指導者をもっと自由に動ける場を作る。
全国大会は何のためにやるのでしょうか？ただ、集まって大勢でキャンプするだけでなのだと、普段の活動と変わらない気がします。
新潟で、テントの立て方を説明されていないのに、いきなり立てろ言われて、意味がわからなかった。せめて、立て方を教えるか、知っている人を班に配置してほしい。

### ○ごはん

安城の全国大会のごはんの中で、バイキングがとても楽しく、おなかいっぱい食べれてよかった。
弁当、バイキング、飯ごう炊飯 etc.どれも一長一短があり、時と場所を考えておかなければならないと思った。
自分たちで作ったカレーが班どくどくで良かったと思う！！（団の活動などで）
まかないのごはんがおいしかったけど、自分で作ってもよかったと思う。
弁当やバイキング等の食事は楽だったけど、豊橋の全国大会のようにみんなで食事を作るのも団結できて、健民っぽくて良いと思う。手作り！！
ケータリングの食事は、準備・片付けが楽でよい。

### ○楽しかった

いろいろな都市の友達ができて楽しかった。
たくさんの方がフレンドリーだったからいろんな人仲良くできてよかったと思う。
他の団に、年齢関係なく友人ができる。
毎年違う都市で行われるために、行ったことのない場所、都市に行けて楽しい。

### ○やってみて

実行委員と青年指導者の伝達がうまくいかないことがあった。
計画外の事を、いきなりやられて、リーダーも、団員も戸惑ってしまった。
指揮をする側になって、大・高校生リーダーをまとめて指示することはとても大変だったと感じた。まとめるって難しい……！



## ○要望

トップからの指示じゃないことを、勝手な判断で伝えるのは混乱するからやめた方がいいと思った。
いつもより多く的人数が参加しているため、どう集団行動をとるか、事前の準備をどうするか、問題が起きた場合だれがどう指示するのかきっちりとしておかなければならない。
大会ごとにバッチを作っていて、小学生（中学生）の頃は、このバッチを集めるのが楽しかった。参加して思い出の証、見たいで良い。
誰か一人、指揮の頭になる人がいることはとても大切だと思った。
自分が先頭に立って動くのではなく、青年指導者が動ける環境を作るようにする。
現場のスタッフと指導者の打ち合わせ（ミーティング）を綿密に行った方がよい。
全国大会だけでなく全国研修も有効に使い青年同市のコミュニケーションを取っておく。
全国委員会での要望をもっと取り入れてほしい。

## ○その他

チクサクコールをすると「ああ、全国大会も終わったなあ・・・」と思える。楽しいけれどせつないような・・・。毎年やっていってほしい。
--

## C チーム

### よかったこと

高校生がすごく積極的だった。時間が上手くいった。
班ごとでまとまって行動できた。年齢関係なくしゃべれた。
ペットボトルのお茶が常備されて脱水症状を防いでいた。飲み物の管理を結構気を使っていた。
普段見られないものを見られた。リーダーがもりあげるから周りも盛り上がるし楽しい。知らない土地に行ける。
体育館の設備よくてごはんもごうかだった。
七夕まつり楽しかった。お祭りみたいな合字が楽しかった。
ファイヤーダンスがすごい。初披露、めっちゃたのしかった。
ファイヤートーチなど、普通では見ることのできないことが見られた。
キャンプファイヤー楽しかった。

### ○よくなかったこと

キャンプファイヤーの準備・片付けを計画的にすればよかった。
基本は歩き、電車などはほとんど使わないと思ったが・・・。電車の移動はなるべく行わない方がいいと思いました。大勢のると迷惑では??
上で決まったことが、下まで伝わっているか? コミュニケーションをとろう!!
あまり、自分から行動できなかった。
クラフトは難しかった。対象年齢は誰か、レベルに応じたゴールが必要!
小学生と青年指導者のネル場所が離れすぎでいた。

## 2. まとめ（全国大会の実施に当たっての要望）

会場	同じエリアで、活動（宿泊）可能な場所を選定。
大会準備品	T-シャツ必要。活動しやすい。参加バッチ必要。参加記念として収集。
行事など	時間に余裕をもったプログラムで、交歓活動を重視。行事は対象年齢を考えた内容。
食事	みんなで作って食べたい。団結心がより高まる。 全員で一斉に作るのではなく、当番制にするとか・・・。
キャンプファイヤー	これは、外せない。必ず実施する。これはメイン行事の一つ。
指導者と青年指導者（行事進行）	主催者側とのコミュニケーションがとても大事、行事内容・行動指示を事前に把握してどのように対応するか考えたい。 主催者側の指示系統をはっきりさせる。指示内容に矛盾がないようにすること。 行事の内容を途中で変更/追加しない。行事進行に混乱をきたす。
チクサクコール	全員で実施する事が適切? 実施方法を考えたい。（別の場所で実施するなど） 時間などを考えた対応、意味のある行動にしたい。混乱をさせない配慮が必要か?

### 3. 東日本大震災で私たちに出来ることは！

・節電する
・電気・PCを消して早く寝る！！
・必要のない電気は付けっぱなしにしない。
・キリストにお祈りする。
・阿弥陀仏様にお祈りする
・募金をする。
・募金には協力する。
・もし私達が被災したら何をしたらよいか考える。
・正しい情報を手に入れる。
・正しい判断をする。
・要らないものは買わない。
・買いだめをしない。
・食べ残しはしない。
・絶対に食べる。
・水とかあまり無駄使いしないようにする。
・救援物資を市役所か大学の窓口から被災地に届ける。
・日々の準備を怠らない。
・連絡手段を確保するまで余計に動かない。避難場所を確認しておく。団体行動をとる。
・非常食を準備しておく。
・近所の人たちとのコミュニケーション。
・高齢者を非難させる方法を確認しておく。

### 4. 1分ビデオ

A/B/C 班に分かれて、健民少年団のPRビデオを作成

前日に、理事の内藤のビデオ撮影テクニックのレクチャーを

実施しました。



# 小学生、自然に触れて勉強熱心に キャンプなど効果

文科省調査 2010/9/3 12:54 日本経済新聞社

キャンプなどの自然体験や農作業などの手伝いを長時間した小学生ほど学習意欲が高まる傾向があることが3日、文部科学省の調査で分かった。自然に親しむ気持ちが増したり、いじめなどの改善につながったりしたケースもあったという。自然体験は5時間以上、農作業などの手伝いは2時間以上だと学習意欲向上の効果が高かったとしている。

2009年度に文科省が行った農山漁村での宿泊体験事業に参加した小学校306校の教員らにアンケートを送付し、全校から回答を得た。

宿泊体験のうち、山登りや星空観察、磯遊びなどの自然体験活動は、5時間以上行った学校の71.4%が「児童が学校での授業により積極的に取り組むようになった」と回答。5時間未満の56.3%を大きく上回った。「自然や環境保全への意識が高まった」のも、5時間を境に大きな差がみられた。

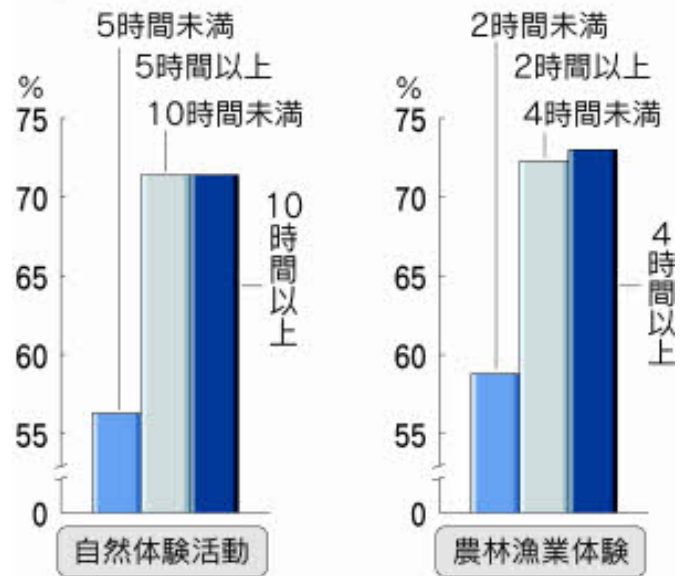
一方、野菜の収穫や地引き網など農林漁業の作業体験では、4時間以上と2時間以上4時間未満の学校はいずれも70%台が「学習意欲が向上した」と答えたのに対し、2時間未満は58.8%。マナー面でも「児童がきちんとあいさつするようになった」のは4時間以上で84.7%、2時間未満で64.7%だった。

全体的には4時間以上の作業体験をすると高い効果があった。文科省は「職業的な体験をすることで学習意欲がわき、地元の人々とも触れあうことで社会性が育った」とみている。

これらの宿泊体験活動が「児童間のいじめなどの問題が改善するきっかけになった」とした学校は57.8%。農林漁業の作業を4時間以上体験した学校は62.1%、2時間未満は54.6%だった。

こうした傾向は都市部と山間部、農地が多い地域の学校を比較しても大差はなく、文科省は地域を問わず日常的な体験活動が児童に不足していると分析。「中途半端な時間数では十分な効果が期待できない。3泊4日以上の日数を確保し、学校に戻った後の教育活動と結びつける方法も考えていく必要がある」としている。

児童の学習意欲が高まったと答えた学校の割合





支援していただいている皆様方へ

多くの方々より被災地情報を求められておりましたが、支援に追われ返信時間もとれませんでした。

被災地では携帯メールは困難を極めました。

この度の災害で、赤十字本社より宮城に派遣され、日赤宮城ボランティアセンター（VC）を3月14日に設立し、事実上のセンター長となってしまいました。

引き継ぎをして3月20日に帰還しましたが、22日まで新潟県支部で報告と後方支援をしていました。次回は3月29日から3日頃まで宮城VCに行く予定です。

18時間勤務が7日続き、最後は20時間勤務が3日続きました。

しかし、自家用車内寝室設営が出来ている私はましなほうでしたし、車中泊生活は私にとっては苦ではありません。

被災現場や市町村レベル社協VCへ日赤防災ボランティアを派遣しなければならない立場は、被災現場に急行し直接支援をしてきた私にとって、ジレンマとストレスを感じさせる役割でもありません。

現地情報収集視察は15日しか回れず、塩釜市と多賀城市の燦々たる光景は言葉で表現する事が不可能です。

皆さんに想像していただくとすれば、TV報道映像と広島原爆ドーム周辺写真を合わせた状況でしょうか。

そこにたたく被災者に支援するいとまもなく、VC運営を行い、県社協とのミーティングで一つ一つ問題解決を進めて日赤ボランティアを派遣しています。

災害規模のあまりの大きさに比較して、私のしていることは何て小さな事なんだと自責の念にかられます。

今は、その小さな事を一人一人の国民が取り組んで、被災者への支援をしていくことしかないのだとも感じています。

日本赤十字社宮城県支部防災ボランティアセンター所属  
防災ボランティアコーディネーター 齋藤敏郎

— 活動写真 —



開会式



散策



討議



発表



レクリエーション



ビデオ撮影